

株式会社 長崎新聞社

- 【代表者】 代表取締役社長 徳永 英彦
- 【事業内容】 情報通信業(新聞等発行)
- 【所在地】 長崎県長崎市茂里町3番1号
- 【TEL】 095-844-2111
- 【従業員数】 169名(男性144名 女性25名)
※契約社員等を含めると222人
- 【平均年齢】 41.8歳
- 【平均勤続年数】 17年
- 【ホームページ】 <https://www.nagasaki-np.co.jp>



■会社の特色■

2019年に創刊130年を迎える長崎新聞の発行やイベントの企画・運営等を通じ、県民の幸福、地方産業経済の発展や地方文化向上に貢献することを目指しています。

会社の取組

- リフレッシュ休暇の取得促進
夏季・年末年始以外に3日以上連続休暇を取ることができます。
- ワークライフバランス啓発冊子の配布
社員が働きながら充実した人生を送ることができるよう、結婚、出産、育児などの支援制度を紹介した冊子を作成し、社員に配布しました。
- ハラスメント外部相談窓口を設置
セクハラやパワハラに関する社員からの相談は社内窓口だけでなく、社外のカウンセラーでも受け付けています。

取組の成果

- 女性の育児休暇取得率→100%(過去3年)
※男性の育児休暇取得実績あり
- 入社3年以内の離職率→0%(過去3年)
- リフレッシュ休暇取得率→92%
(2017年4月～18年3月)
- 1人当たり残業時間(2018年4～9月)
→前年同期比より減少



社員の声

2012年春の双子の誕生時に20日間、14年冬に末っ子が生まれた時に1カ月間の育児休暇を取得しました。

双子の時はほとんど自分の時間がなかったような記憶しかありません。赤ちゃんが2人いるので、手の掛かり方も2倍。出産直後の妻が十分に動けるはずもなく、睡眠不足になりながら双子の世話や家事の多くをこなしました。職場復帰の際は自分の意思で自由に動ける解放感にひたったほどです。もし、育休を取っていなければ、家の中は回っていなかったでしょう。

末っ子が生まれた時は、2歳になった双子と小3の長男がいたので、実家の祖父母の手も借りながら子ども4人の面倒を見て、なんとか乗り切りました。

いずれの育休時も、上司や職場は快く送り出してくれました。子どもたちはすくすくと成長し、公私ともに充実した日々を送っています。
(40代 編集局男性)